

連絡会

VOL.37

新宿連絡会結成後10度目の冬、今年も新宿中央公園ポケットパークを舞台に新宿越年の取り組みが行われました。

連絡会冬の合言葉は「仲間の命は仲間を守ろう!」。独りぼっちな路上の冬は厳しい。季節の寒さ、そして心の寒さ…。

それを「仲間」と云う「つながり」で少しでも暖めていこうと94年冬、新宿西口インフォメーションセンターから始まった新宿越年の取り組み。98年2月の西口からの自主退去以降は中央公園に場所を移し毎年繰り返される冬の大きな事業。

そこには暖房の効いた暖かいプレハブがある訳でもなく、三度の飯がある訳でもない。それでも寒風吹きすさぶ公園の片隅で

暖冬の中、第10次新宿越年の取組み無事終了

は薪を割り暖を作り、簡易テントの中で毛布にくるまり仲間のために働く多くのスタッフが今年も集って来る。「昔世話になった」「仕事がこの時期ちょうどない」「正月は仲間と過ごさなくっちゃ」そのスタッフの中心は飯場の日雇の仲間、元路上の仲間、今も路上にいる仲間達である。

「10度目の冬を共に!」多くの仲間と、学生、社会人のボランティアスタッフ、医療班関係者の職能ボランティアスタッフ、音楽で寒さを吹き飛ばそうと毎年来て下さるミュージシャンスタッフが共に築きあげる取り組みは、新宿と云う大都会の中、ほとんど注目されていないように思われている。毎日のように現場に届く全国からの「食材」「衣料」。「支援してくれている人はこんなにいるんだ」その荷物を整理している仲間から驚きの声があがる。

仲間のネットワーク、ボランティアのネットワーク、そして全国の支援者ネットワーク。もちろん、それぞれには、それぞれの思いがある。けれ

ども、この冬、「仲間を守らなければ」という気持は全ての人々の共通項だ。

今年はまれにみる暖冬。雨もなく、北風もどこか大人しい冬。「冬将軍じゃなく、少佐クラスだ」なんて冗談も出る位、季節的には楽な越年であった。それでも油断は禁物。炊き出し、パトロール、医療、企画、そして深夜の泊まり込み。すべてをテキパキと執り行い、新宿各地、そして今年には中野方面にも情報を伝達し、仲間の大きなネットワークを再構築していった。

明けて2004年、今年も東京都も新事業に動き出し、従来の路上生活者対策からの転換が図られるだろう年でもある。

幾度もの試練を経て来た連絡会は、今後何ごとが起ころうとも動じる事はない。路上の道理を、路上の思いを社会に伝え、訴え、変えて行くだけである。その大きな力に第10次越年はなり得ただろう。

(笠井)

越冬カンパも募集中!

路上越冬支援のための現金、米、米券、毛布、ホカロン、衣類等のカンパ、今年もどうか宜しくお願い致します。

<冬場の支援に特に必要なもの>

○現金(諸活動資金)○米券○米○レトルト食品○衣類(男女問わず冬物、多少汚れていても構いません)○毛布○ホカロン○テレホンカード(入院者の連絡用使用済みでも可)○葉書、切手(入院者の連絡用)

ボランティア募集中!

新宿炊出し(準備・片付け)
毎週日曜 午後6時より7時半
ところ 新宿中央公園

池袋炊出し(準備・片付け)
第2、第4土曜 午後3時より5時
ところ 南池袋公園

医療相談会
第2日曜 午後7時より8時半
ところ 新宿中央公園
第2日曜 午前10時より正午
ところ 戸山公園

パトロール(夜、昼回り)
新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半~
中央公園 毎金曜 午後4時~
戸山公園 毎水曜 午後6時~
池袋駅周辺 毎水曜 午後9時~
神田川周辺 毎火曜 午前10時半~

*お問い合わせ先
090-3818-3450 (笠井) もしくは、
メールshinjuku@tokyohomeless.com

現金カンパ振込先 郵便振替口座00170-1-723682【新宿連絡会】

カンパ物品送付先 *日曜指定をお願いします。
111-0021

東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付 新宿連絡会

越年越冬闘争への物品、お金のカンパどうもありがとうございました。

越年越冬闘争への暖かいカンパに感謝いたします。おかげさまで無事年を越す事ができました。皆さま方からの支えにたえ、越冬後段の諸活動、春の要求運動へ向けて頑張っていきたいと考えています。引き続きのご支援宜しくお願い致します。

新宿連絡会2003年4月-2004年1月まで 会計報告

収入)		支出)	
炊出し部門寄付	¥ 202,775	炊出し事業費	¥ 507,811
活動部門寄付	¥ 8,935	医療活動事業費	¥ 7,284
越冬部門寄付	¥ 369,376	パトロール事業費	¥ 136,808
通信部門寄付	¥ 48,435	その他の活動関連費	¥ 109,577
その他寄付	¥ 648,775	福祉面会関連費	¥ 132,640
日本ボランティア会義援金	¥ 2,000,000	自立支援事業費	¥ 92,752
事業収益	¥ 196,355	教宣活動関連費	¥ 413,707
借入金	¥ 814,282	事務費	¥ 404,765
前期繰越金	¥ 995,908	越冬事業費	¥ 887,841
		文化娯楽事業費	¥ 150,886
		その他の事業費	¥ 1,119
		池袋関連事業費	¥ 130,596
		雑費	¥ 10,800
		返済金	¥ 814,282
		次年度繰越金	¥ 1,483,973
合計)	¥ 5,284,841	合計)	¥ 5,284,841

路上文芸総合雑誌

露宿

28号好評
発売中!

購読申し込み方法

郵便振替用紙(00160-6-190947ろじゅく編集室)に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい(発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、03-3373-9878メールrojuku@d9.dion.ne.jpにても注文承り中。

新宿連絡会NEWS / VOL.37 2004年2月7日発行(隔月刊) 定価100円

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議(新宿連絡会)

111-0021東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付

電話・FAX 03-3876-7073もしくは090-3818-3450(笠井)

カンパ金送付先・郵便振替口座00170-1-723682【新宿連絡会】

メール・shinjuku@tokyohomeless.com http://www.tokyohomeless.com

編集協力・ろじゅく編集室 東京都新宿区西新宿4-32-4-603 http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/

炊き出し班報告

本田庄次



暖かい日々に恵まれた今回の年越しの取り組みでは、例年通り山谷に行って白米を炊いてくる役割を担いました。新宿で野宿者たちに提供できるのは、毎夕の一日一回の食事ですが、その一回が八百食以上ともなれば、準備だけでも大変な作業となってしまいます。おかずは中央公園で、白飯は山谷の越冬拠点である労働福祉センター前で、それぞれ準備し、午後6時すぎから新宿で合体させる手順を、ここ数年間続けています。

そこで山谷炊き出し班の役割は、山谷に行って17釜（米の重量にして約百二十キロ以上）の白飯を炊いて、新宿まで持って帰ってくることにあります。行きは山の手線と常磐線を乗り継いで電車と徒歩で山谷に行き、暮れ正月を迎えるにつれ着飾った乗客が増えるのに反して、一日一日服と顔は煤で黒くなり、煙りの匂いが燻製のように染みついた十名余りの集団が電車に乗り込むと、それだけでその空間は異様ですらありました。しかし、共にこの行動を担った十五人程の仲間たちは、「共に年を越すために、仲間の飯を炊いてくるんだ」という強い使命感を持っていたかどうかは分かりませんが、とにかく和気藹々としたこの行動を担ってくれました。冷たい水で米をとぎ、野菜を洗い、炊き出しの後には使い終わったカップを公園で洗い、共に年を越した仲間たちに、心からご苦労様でしたと言いたい。

さて、そんな中で今年特徴的だったのは、「普段は仕事を持ち、屋根のある所で生活している者」が、「どうしても年末年始だけは食うに食えなくなってしまい新宿に出て来る」という現象がここ

数年続いていること。しかも全く同じ理由で去年に続いて今年も、という仲間が何名も現れていることです。「また今年も来たのかよ。どうかならねえのかよ」などとお互いに悪態をついて再開するのもまた嬉しいものですが、新宿の越冬拠点が「下層労働者の駆け込み寺」のような位置を持つてしまっているのも、これまた事実であろうと思います。10年前ならば、『年末年始の労働者とのつながりを維持発展させる』と息込んで、やれ組織化などと肩張ってやっていたものの、今では「必要になればまたやってくるさ」とお互いに自然体で越年後は自分の生活と仕事の場に散っていく仲間たち。下層労働者全体の春がくるのはいつのことか、また越年の取り組みは一体いつまで続けねばならぬのか、そんな根本的な問いの答えは簡単には出てはこないでしょう。ただ、一年後の越年時もまた、私は仲間と共に飯を炊いていることだけは確実なようです。

仲間たち！今年もまたよろしく！



てきたこと、「病院にかかりたければ福祉事務所で相談すればいい」といった正しい情報が仲間間で広がっていることの反映だと積極的に評価できます。医療班としても、今後も疾病の早期発見・早期受診につながるような活動を仲間と共に進めていきたいと考えています。

次に良かったこととして、新宿区福祉事務所や他のボランティア団体との連携がスムーズに行った点があります。新宿区の福祉事務所とは、越年期間に入る前に打ち合わせをしていた通り、高齢で衰弱した仲間の一時保護について、休暇中の自宅待機職員が動いてくださり、宿泊所の緊急宿泊枠を利用することができました（年明け5日に改めて生活保護開始）。民間団体間の協力では、民間の女性施設のご好意で高齢の女性を一時保護していただいたり、年明け5日の福祉行動で宿泊先が決まらなかった高齢の仲間を民間のボランティア団体が運営している施設で緊急に受け入れていただく、といった事例もありました。それぞれの担当者の方にお礼申し上げます。また、東京駅・有楽町などをパトロールしている「四谷おにぎり仲間」とは、東京駅で「おにぎり」が会った重症の仲間を新宿の医療テントで一時保護（1月5日に千代田区より入院）する一方、新宿で出会った高齢の仲間が他区で生活保護を受けていたことがわかったと、その区での福祉対応を「おにぎり」でやっていただく、という協力関係を結ぶことができました。

「凍てつく路上に高齢の人、衰弱した人を放置しておくわけにはいかない」という一つの想いを、立場や団体の違いを越えて「路上」に関わる関係者が共有し、必要に応じて手を携えながら駆け抜けていくことのできた越年だったと思います。

寒い冬はまだ続きます。医療班としても、気を引き締めながら越冬後半の活動に取り組んでいきたいと考えています。

*1月5日新宿区福祉行動記録

- ・施設・ドヤ入所（生活保護）6人
- ・施設緊急入所 1人
- ・女性施設入所 1人
- ・入院 1人
- ・医科受診のみ 21人
- ・歯科受診のみ 5人
- ・相談のみ 2人

*新宿連絡会・医療班の活動は、2003年に引き続き2004年も、ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」の助成を受けることになりました。ファイザー株式会社ならびにプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。

*医療班の活動報告が、新宿ホームレス支援機構発行『季刊 Shelter-less』第19号（2003年冬号）特集「路上死をなくすために？全国健康支援活動？」に掲載されています。800円＋税。ぜひ一読ください。お問い合わせは同機構資料室（電話03-3226-6845）まで。



手を携えながら 駆け抜けた越年 ～医療班活動報告～

医療班：稲葉 剛



新宿連絡会として10回目、中央公園に拠点を移して6回目となる今越年でも、医療班は、24時間体制で医療テントを運営することができました。例年同様、一日二交代制で活動を行いましたが、今回はほぼ全日程で「医師が一人以上、看護師も一人以上」という充実した体制で臨むことができました。参加した医師・歯科医師・看護師・看護学生・医学生・鍼灸師・社会福祉士等の医療・福祉関係者は延べで数十人にのぼり、中には遠隔地から駆けつけてくださった方もいらっしゃいました。この場をお借りして、ご協力に感謝申し上げます。

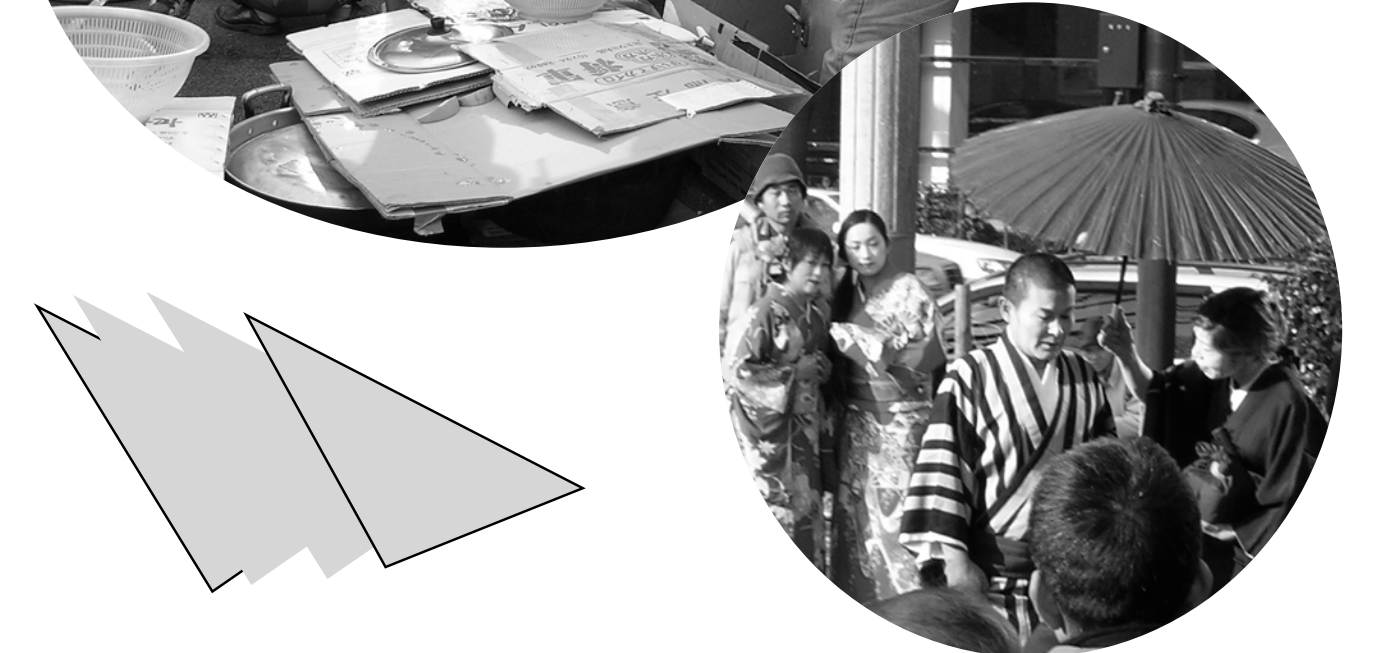
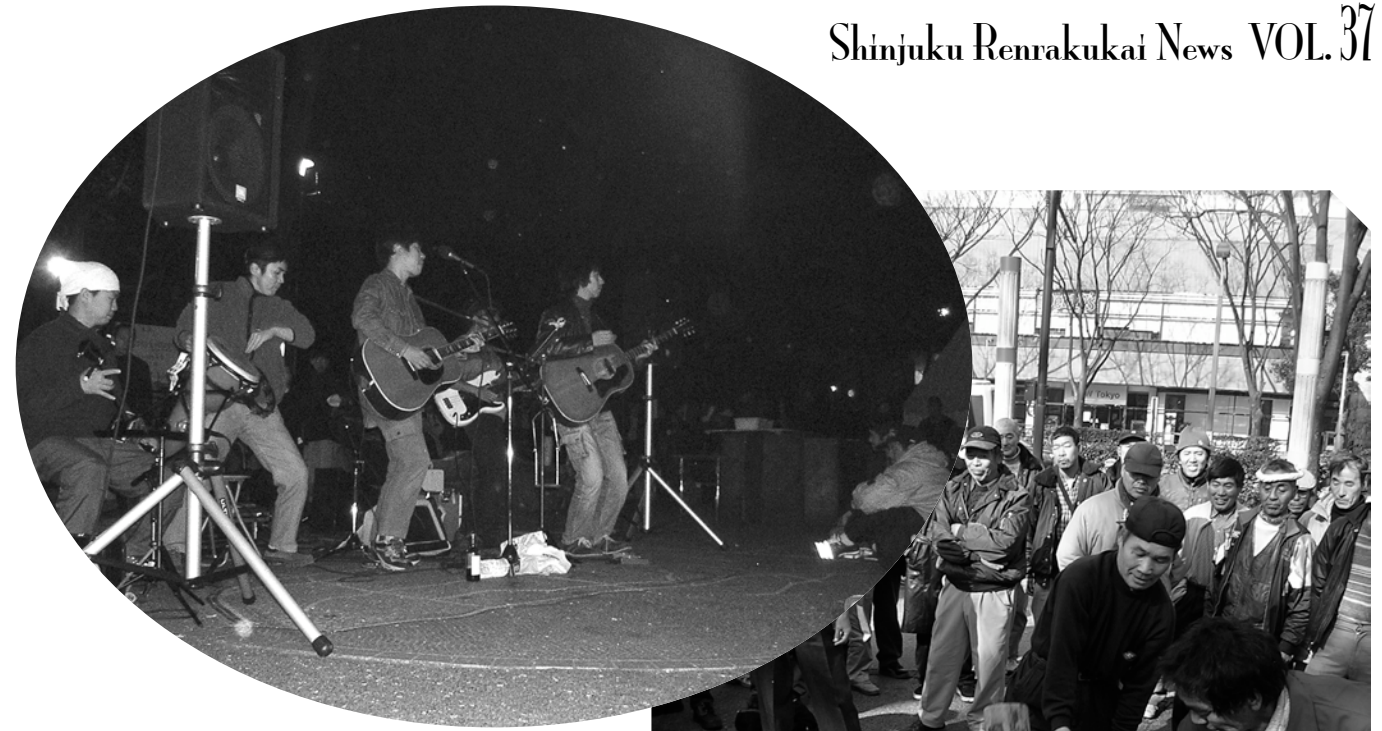
ここでは実際にご覧になっていない方のために、我々が医療テントの中の様子を説明したいと思います。

12月28日、多くの仲間の協力で設営された医療テントは12畳。運動会等で使われるテントに周囲をシートで囲ったものです。医療テントに来る仲間は、狭い入口（風を防ぐため）をくぐって、相談に訪れます。中に入ると、奥の6畳がカーテンで仕切られているのがわかります。ここは、衰弱した仲間のための一時保護スペース（最大時5人が就寝）になっていて、その部分はパレットで底上げされています。入って右側には医薬品（薬局からのカンパや購入したもの）の保管スペース、

左側には全国から来たカンパ衣類の保管スペースがあり、必要に応じてここから仲間に医薬品や衣類を渡します。向かって正面のカーテンの前にボランティア医師が使う長机があって、ここが主な相談スペースです。また、入口に近いところには石油ストーブがあり、相談が多くて順番待ちになる時はここであたたまりながら待つこととなります。

相談は24時間いつでも受け付けましたが、やはり人が集まる炊き出し前後の時間に相談者が増えます。やはり圧倒的に多いのは風邪で、暖冬と言えども厳しい野宿生活が垣間見えます。12月30日と1月4日には炊き出しの後の時間を使って、集中的な相談会が行われ、5、6人の医師が30-40人の仲間の相談にのりました。また戸山公園でも1月2日に相談会が開催され、豚汁と甘酒であたたまって新年のご挨拶をしながら、十数名の仲間の相談にのりました。

今回の越年の特徴として第一に挙げられるのは、「平穏」だったということです。通常の医療相談会同様、風邪・皮膚疾患・外傷など生活状況に由来する疾病や、高血圧・糖尿病等の慢性の疾病を抱えた仲間に数多く会いましたが、緊急対応が必要なほど重篤な状態の仲間に会うことはほとんどなく、救急で入院する仲間もいませんでした。これは日常的に健康に対する仲間の意識が高まっ



新宿パトロール班報告

上釜一郎

第10回越年闘争におけるパトロール班のテーマは「広域」でした。前回同様8日間という長丁場のなか、中央公園や新宿駅周辺に加え、区内の小公園、神田川沿い、戸山公園（大久保地区・箱根山地区）、中野駅周辺（中野夜回りの会と合同）の仲間に対し限なくアプローチするため昼夜にわたる変則的なスケジュールを組み、パトロール班全体でフォローしたつもりです。

今回の越年闘争は天候に恵まれたことが幸いしか、結果としてパトロール活動での救急搬送はなく、重篤な症状の方にお会いすることはありませんでした。

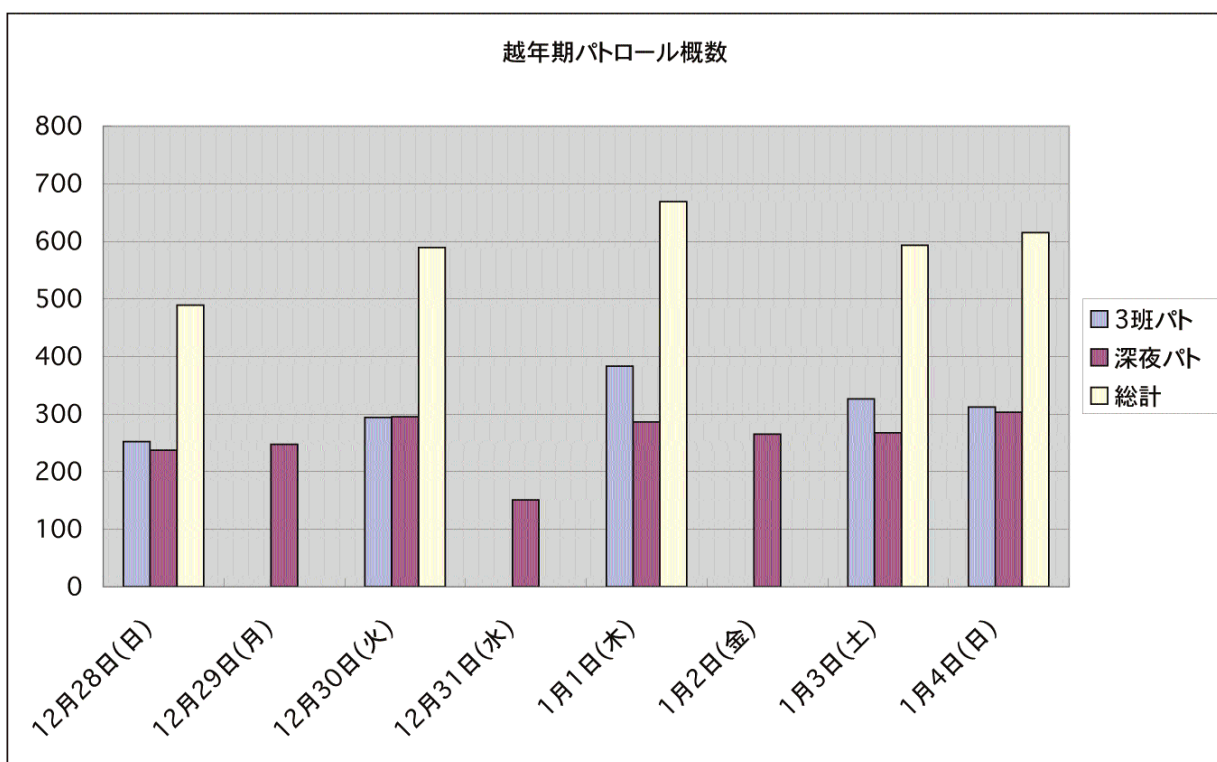
また、医療班との連携も円滑に行われ、医療相談会の開催される前日や当日には集中的に合同で呼びかけを行ったり、深夜に要保護性の高い高齢者や女性と出会った際には、休み明けの福祉行動にお繋ぎするため、迅速に医療テントで保護する

ことができました。これも両班における日頃の活動の成果だと自負しております。

今回「広域」をテーマとした理由には、昨年パトロール活動で体験した二つの出来事が挙げられます。

一つ目は、昨年1月初旬に戸山公園で新規の流入層と思われる仲間が亡くなったことです。これは、戸山公園という遠隔地で野宿の術を知らない方が越年期という極寒の状況でどのように生き抜くのか、そのための効果的且つ正確な情報提供の仕方と支援網の構築が不十分だったことが挙げられると思います。対策として、顔の合わせられるパトロールを行うために前回よりも開始時間を繰り上げ、深夜にも度々足を運びました。なかには話し込みで情報提供した翌日から中央公園での協同炊事等に積極的に参加してくれる仲間も現れ、一定の効果があつたのではないかと思います。

二つ目は、昨年9月に柏木公園で強制排除が行われたことです（その経緯は季刊Shelter-less 19号に譲る）。これを契機として、新宿区環境土木部から区内の小公園に起居する仲間についての情報提供を受けるようになり、これまでパトロールの対象としていなかった地域にも実際に足を運ぶようになりました。これまで新宿連絡会の支援



活動と無縁だった方々の生活実態に若干の戸惑いを覚えながらも話し込みをするなかで行政のサービス（生活保護、自立支援事業等）についての情報から疎外されている印象を受けました。

上記の二つの出来事は、ホームレス支援活動の一環としてのパトロール活動を通じて、仲間の安否確認と情報提供という基本に立ち戻りつつ、その基本作業の繰り返しの中で仲間とどのように関係をつくり、その自立を支援していくのか、その問いへの回答をいよいよ突きつめられた感じでした。

リストラ、借金、立ち退き、離婚等、人それぞれの事情でホームレス状態になり、その生活拠点を新宿区内に置く方が約1000人以上（新宿連絡会調査）いるといわれています。

一概に単純化することはできませんが、その中には、自立生活へのベクトルを路上脱却（アパート生活）へと垂直に焦点

	12月28日(日)	12月29日(月)	12月30日(火)	12月31日(水)	1月1日(木)	1月2日(金)	1月3日(土)	1月4日(日)
西口	101	—	110	—	153	—	119	126
都庁下	29	—	31	—	30	—	32	36
南口	1	—	5	—	4	—	3	0
東口	53	—	73	—	110	—	74	64
北口	61	—	65	—	77	—	88	79
コマ	7	—	10	—	9	—	10	7
計	252	—	294	—	383	—	326	312
4号街路	111	87	120	65	101	112	99	150
地下広場	126	160	175	86	185	153	168	153
計	237	247	295	151	286	265	267	303
総計	489	—	589	—	669	—	593	615

化して大田寮の抽選や日雇い仕事等に勤しむ方もいれば、そのベクトルを水平に向けて従来の日雇い労働者の生活様式のひとつである「アオカン」を維持しながら都市雑業等に勤しむ方もいます。また、無防備且つ不安定な路上生活に憔悴して、自分のベクトルの重みに耐えられなくなったり、照準の合わせ方がわからなくなり自暴自棄になる方もいるであろうと思われます。

路上での出来事を新宿区との交渉を含む運動上の当事者のひとりとして体

験するなかで自立生活とは起居する場所の問題ではなく、そこでの生活のあり方であると感じました。「地域住民との軋轢の解消」はホームレス問題における重要なテーマです。今後、本人が希望する場所での生活を維持するために「何が必要か」の模索と実践にパトロール班の支援活動の比重が置かれることが予想されます。

最後に、昼、夜、深夜通してのハードなスケジュールをパトロール班全体で無事消化できたのも日頃から参加されている仲間やボランティアの皆さま、また越年闘争期間から一日でも参加してくれた皆さまのおかげだと思っております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

以上

